



島情(しまごころ)永縁に幸ふ隠岐国づくり

***** 島根県隠岐の島町 NPO法人隠岐しおさい *****





誰もが幸せになれる島づくりを目指して

隠岐諸島は、島根半島北東40〜80キロメートルの海上に位置し、四つの有人島と180余りの無人島からなる島だ。日本有数の好漁場で、水産業は島の基幹産業であり、活動拠点である津戸地区も漁業を中心に栄え、島内でも、ここでしかとることのできない地域食材や風土や文化が背景となった、昔ながらの食文化が現存するものの、食の多様化や過疎高齢化、担い手不足等で地域社会の衰退と、地域独自の豊かな食文化や伝統食が失われつつあることに危機感を抱いた。そこで、物質的にも精神的にも豊かに暮らせる地域づくりを島内に定着させるため、若い女性と高齢者（60〜80代）との女性中心のメンバーが、多様な事業を融合し進化しながら、共生共創の島づくりを展開している。

女性の感性で「新しい社会的価値の創造」

1 永縁の情の故郷を目指して！しおさい感幸交流

地域に根を張り現場に立つと、島には工場はないが、地域に昔から記憶されている風習や自然の恩恵をいっしょに先代からの教えや知恵があり、人々の暮らしそのものが「生産加工の現場」である。そこで地域そのものを振興することが、生産振興を図ることにつながると思ひ、島独自の文化遺産を商品化した。

①季節ごとに水揚げされる旬の農水産物を使い、漁村に記憶されている風習や調理法、生活文化を、地元住民との交流を交えながら体験するイベント「しおさいふれあいキッチン」を定期的に開催。家族的な雰囲気を実施する感幸交流は、子どもから老若男女、障がいのある方、外国人と、誰でも気軽に参加でき、地域・郷土食の素晴らしさを伝承している。

②自家製の隠岐椿油の復活と、津戸地区には、隠岐島内でも当

団体でしか購入できない地域食材（サザエの王様大森島サザエ）や、津戸地区でしか味わえない独自の食文化体験（サザエの味噌汁、煮ブラ、イカの子はんぺん）、世代を超え育まれてきた伝統食（農林水産大臣賞受賞サザエ混ぜご飯の素、ウニ味噌、白イカ麩等）を隠岐のこだわり特産品（隠岐料理遺産）とすることで、島と都市を結び、全国にしおさいファミリーを増やしている。

③島固有の地域資源を活かした6次産業化の取り組みと、幅広い年代の女性が生きがいをもって活躍している姿が認められ、平成30年から、漁師レストラン海鮮バーベキューハウスを運営している。「感幸交流」とは、地域の物的・人的資源の体験交流を通じて、来館者が満足感として、「幸せを感じる」ことが可能な観光を提供することを意図した当団体の造語

2 みんなが幸せになれる『隠岐の国 五方よし』

『隠岐の国 五方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし、作り手よし、未来よし）』を目指し、次世代が好ましい状態を現世代のニーズとして取り組む形で発展方向を見据えた、持続可能な島づくりへのアクションを起こしている。

①食品ロス削減出前講座や啓発活動、フードドライブ活動（宮城県と愛媛県の生活学校が運営する子ども食堂等に寄贈）だけでなく、地球環境に配慮した行動やグローバルな視点をもった隠岐びとづくりを目指して、エシカル消費の普及啓発やエコキャップ回収運動、環境保全活動を実施。昨年の5月より新型コロナウイルス医療対策寄付として、「エシカルご縁（5円）プロジェクト」を、また、只今、「隠岐の島シトラスリボンプロジェクト」を遂行中。

②小中高学校・養護学校と一緒に、食と命のつながりや里山・里海の大切さを学ぶ故郷学習や環境教育を定期的に実施。子どもふれあいキッチン、川の水環境調査、原木伐採と植栽、天然記念物ヤマネの学習、栽培漁業学習と稚魚放流、子ども消費者教室等、



一生に一度の感動体験を心掛けています。

我が故郷の民謡の一節に「隠岐は絵の島、花の島。里にや人情の花がさく」と歌い継がれるように、お客様に寄り添った感幸交流には、満面の笑顔の花が咲く。そしてエシカルな社会貢献活動は、地域のつながりを深めるだけでなく、障がいのある方や若年世代、次世代を担う子どもたちが関心をもち、草の根運動として広がっている。小さな子どもからお年寄りまで多くの人々とふれあい、心のぬくもりに包まれるたびに、人生に寄り添える幸せを感じるとともに、紡いだ時間が「絆」となり「明日を生きる力」となっている。

持続可能な島づくり「しおさい未来アクションSDGs」

女性のエンパワーメントを促した活動は、女性や高齢者の働く場の創設と雇用確保による地域活性化と合わせて、地元農林水産物の消費拡大、高付加価値化、水産物の価格安定に貢献した。また、SDGsへの取り組みとリンクしたことで、持続可能な島づくりも推進された。つまり、地域の食や風土が地域を支え、地域コミュニティを促進することが、「生涯現役の原動力と新たな地域コミュニティ」を創出し、離島地域の自立と再生、活力増進に寄与している。

唯一無二の島づくり

「国の光を観る」という言葉があるが、私はこれまで「島の光」を生み育む地域づくりを積み重ねてきた。私にとって「島の光」は、人々のためまぬ努力がいつばいに詰まった光輝燦然たる『命の輝き』である。今日も現場で未来に伝える、皆の想い、が私の心臓と共に力強く脈を打つ。これからも共に次世代へつなげるため、そしてさらなる発展の礎となることを希いながら、「地域アイデンティティーを高める島づくり」に隠岐の国から、果敢に取り組んでいきたい。

